

第1回 加茂市都市計画マスタープラン策定委員会  
議事要旨

日時：令和5年7月28日（金）14:00～

場所：加茂市役所 3階 301会議室

出席者：以下のとおり（敬称略）

区分	氏名	所属・団体名
第1号 学識経験者	松川 寿也	長岡技術科学大学 准教授
	鈴木 孝男	新潟食科農業大学 教授
第2号 関係団体	海津 恵美	七谷さとやまふぁーむ
	佐藤 愛子	えちご中越農業協同組合 経営管理委員
	川崎 大一郎	株式会社 川崎薬品商会
	川上 和哉	有限会社 川上製作所 代表取締役社長
	藤田 和子 (欠席)	特定非営利活動法人 わくわくクラブ 理事長
第3号 その他	片岡 廣夫	公募委員
	笹川 裕子	公募委員
	森田 佑介	公募委員
	市川 恭嗣	加茂市 CSO
オブザーバー	上村 康司	新潟県三条地域振興局地域整備部 部長

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員及び事務局紹介
- 5 委員長及び副委員長選出
- 6 議事
  - (1) 都市計画マスタープランについて
  - (2) 加茂市の現況について
  - (3) 策定スケジュールについて
  - (4) 都市計画に関する市民アンケートについて
- 7 事務連絡
- 8 閉会

【意見交換】

- (1) 都市計画マスタープランについて
- (2) 加茂市の現況について

～事務局資料説明～

(委員)

- ・加茂市は「小京都加茂」といわれているが、これまでのまちづくりは不整合となっている。そういう意味からも総合計画、都市計画マスタープランは重要である。
- ・都市公園面積の記載について、県との比較では十分であるように市民に誤解される可能性があるため、記載方法を検討してほしい。公園の現状は、機能や配置面でも不足していると考える。
  - (事務局) 記載を修正する。

(委員)

- ・空き家の現況データに空き店舗は含まれているのか。
  - (事務局) 空き店舗は空き家としてカウントしていない。
  - (委員) 空き家に関して基本計画を別のワーキングの方で進めており、その中では商工観光課が中心になって空き店舗の実態把握というところも今年度進めている。

(委員)

- ・今ある公共施設が 20 年後、使える施設があるのかどうか懸念がある。使う施設があるのか、新しく建て直さなければいけない施設があるのかどうかということも重要である。
  - (事務局) 公共施設については、現在都市計画マスタープランとは別に総務課で公共施設再編のためのアクションプランの策定を進めている。都市計画マスタープランのアンケートと同封する形で公共施設再編アクションプラン策定のためのアンケートも実施する。
  - (委員) 公共施設が 150 近くあるが、その大半が既に 40 年以上経過しているような状況にある。人口もかなり減少し、財政状況も豊かではない中で、縮小をかけていきながら、使えるものは維持し、統廃合をする必要があるということ別のワーキングで 2 年かけて行う予定である。

(委員)

- ・ごみ処理場や消防署などの公共施設の移転について、建て替えではなく、農地への移転となると都市機能が変わってくるため、速やかに情報を開示してほしい。
  - (事務局) 庁内で連携を図り、様々な情報を提示していく。

(委員)

- ・都市計画マスタープランは 20 年後の計画であるが、加茂市では少子高齢化や公共施設の老朽化などの様々な課題を現在で抱えており、その課題の解決も考える必要がある。

- (事務局) 都市計画マスタープランというのは個別の課題の解決等を踏まえたものである。総合的に考えているものがないと、部分最適で課題を解決していくことが難しい。
- (松川委員長) この計画は適宜見直しを行うものである。

(委員)

- ・この都市計画マスタープランは、人口や都市規模が縮小している状況のなかでの当初策定となる。他の市町村とは状況が異なるため、覚悟が必要である。
- ・加茂市の現状に目をつむりながら、20年後の将来を見据えた加茂市の姿というのはどうやって掘り起こすのか検討が必要である。

### (3) 策定スケジュールについて

～事務局資料説明～

(委員)

- ・地区別懇談会について、20年後のまちの姿を描くということと、10年後の見通しなども重要であり、若者への参加を促す必要がある。
  - (事務局) 基本的には年齢で絞るということはないが、若い方や働いている方も参加できるように、開催する時間帯を平日夜か休日に設定する予定である。

### (4) 都市計画に関する市民アンケートについて

～事務局資料説明～

(委員)

- ・アンケートのご協力をお願いの2行目、「将来の加茂市のあるべき姿や方向性を示す『加茂市都市計画マスタープラン』策定の準備を進めております」について、“あるべき姿”の文言を削除して、文字を強調してほしい。
  - (事務局) 文字は強調し、“あるべき姿”の文言を削除する。

(委員)

- ・アンケート対象者を16歳以上に絞った理由はあるか。
  - (事務局) 例えば中学生以下については今後個別に説明を行ったり、このような形で意見を聞いたり、そういった場を設けるということで、アンケートについては高校生以上を対象としている。

(委員)

- ・本計画は20年後を見据えた計画のため、アンケートについてできる限り若年層への回答が必要である。

(委員)

- ・総合計画策定の際は、中学生や若い世代の意見を分布図で反映したものがあり、非常に興味深いデータが出ていた。
- (事務局) 総合計画策定の際は、個別に中学生アンケートを実施した。

(委員)

- ・中学生の声というのは大事であるため、学校訪問等で、中学生に都市計画に関する話をし、その中で都市計画の意識を持たせつつ、中学生の考え等を聞き入れるような場があると良いと考える。
- (委員長) 高校の授業では、地理総合はカリキュラムが変わって、地域での課題等を考える、地域学習の機会が増えているため、都市計画マスタープランの策定に参画してかれるような方法はあると考える。
- (委員) 10月、11月に須田中学校と葵中学校においてまちづくりの講演会を予定しており、その機会ワークショップやアンケートを行う方法もある。

(委員)

- ・住居地域やまちに接した山林の方向性についてどうするかという設問があると良いと考える。
- ・景観形成についての設問の項目に加茂川に加えて下条川も追加してほしい。
- ・景観形成についての設問の田園風景の景観について、風景なのか、景観なのか、統一させた方がよい。

(委員長)

- ・アンケートについて、大きな修正は非常に難しいかもしれないが、用語の統一や、設問の順番、アンケートへの答えやすさ等、検討する必要がある。

(委員)

- ・Web アンケートについて、問題数が多いことと、Web 上での回答しやすさについて懸念している。

(委員)

- ・アンケートの割り振りについて、今後 20 年の計画を考える中で、若者の意見を多く取り入れる必要があるため、年代も均等割りで配布する方が良い。
- (委員) 年代も均等割りで配布し、回答数を均等に取りに行く方が良いと考える。
- ・若い方に将来の加茂市について責任を持っていただくという意味でも、若い方の意見が欲しいと考える。

(委員)

・簡単に言うと、暗いと感じるため、これから市民の皆さまにアンケートを行う中で、現状、今後のことも知らせることは必要だと思うが、もう少し明るくまちを、この先の未来をつくれるようなものにした方がよい。

以上